

イルカ通信

隔月1回発行
PDF版は無料でダウンロード
できます
(下記参照)

小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA) 2006年6月日 No. 012

小笠原で暮らすイルカたち

「親離れはいつ？」

なかなか親離れしない親子イルカがいます。#20(母親)と#19(子供)の親子です。子供はメスであることが分かっています。この親子はOWAイルカ調査隊が結成された2003年夏からすでに確認されており、もう2年半以上一緒にいることとなります。

この親子は父島周辺で頻繁に確認されています。イルカ調査隊の1週間に1回の調査で、この2年半の間に26回も確認されています。3ヶ月以上、父島周辺海域で目撃されなかったことはありません。この親子にとって父島周辺は暮らしやすいのでしょうか？



上が#20(母親)、下が#19(子供)

「仲良しいルカ」

個体識別番号#20(母親)と#19(子)の親子ミナミハンドウイルカを繰り返し観察していると、同じ群れの中にいつも一緒にいるイルカがいるように感じました。そのイルカはザックと呼ばれている個体識別番号#9のメスイルカです。早速、#20の過去のデータを分析してみたところ、#20が調査で18回確認されている中、ザック(#9)が12回も同じ群れの中にいたことが分かりました。

小笠原のミナミハンドウイルカは離合集散型という群れの形態をとっており、お互い離れたりくっついたりというのを繰り返しています。しかし、そんな中でも#20とザック(#9)のような、お互い仲良しな？イルカがいるように感じています。



ザック(#9・上写真)と#20(右写真)は仲良し？



日焼け対策を忘れないでね！

楽しいドルフィンスイムに夢中！
でも、こまめに日焼け止めクリームを塗ってね。
イルカや海にやさしい無添加のものがgood！



ラッシュガードを1枚持っているとお日焼け防止、クラゲや寒さから守ってくれて重宝しますよ。